

## ベトナムFW 8/3~8/7 水班報告

私たち国際科水班4名（三浦、ハント、森山、森重）は8月3日から8月7日まで間での5日間ベトナムのハロン湾とハノイ市内フィールドワークを行いました。3日目まではハロン湾で、それからはハノイ市内で活動を行いました。

### 1日目（ハロン湾へ移動）

私たちはベトナムFWを充実したものにするため、熱意と興奮を胸に長崎駅前に集まりました。それから高速バス、飛行機、自動車です総移動時間15時間かけハロン湾へ向かいました。最初に降り立ったハノイノイバイ国際空港はとても都会的な雰囲気がありましたが、一步市街地から出てみると一面に畑が広がっており、牛が道路を悠々と歩くなどベトナムののどかな風景を目にしました。交通量が多く、クラクションの音が絶え間なく鳴り響くなか4時間かけてハロン湾へ移動しました。道路の舗装は日本ほど進んでおらず、少しの雨でも大きな水溜りができていました。また道路脇にはごみが多く捨てられており、所々異臭が漂う通りもありました。ハロンはベトナムではとても有名な観光地でなおかつ夏休みであるということもあり、多くの人でにぎわっていました。



### 2日目（ハロン湾、水上村での研修）

2日目は一日ハロン湾で研修を行いました。当初は、ハロン湾でのマングローブの植樹が予定されていましたが、今回は実施できず、その代わりに、ハロン湾のクルーズを体験しました。ユネスコの世界自然遺産に登録されているハロン湾の雄大な熱帯雨林と石灰岩からなる無数の島々を船の上から見学しました。ガイドさんからはハロン湾が世界自然遺産に登録された過程や現在のハロン湾の状況について説明を受けました。また、ハロン湾の中に残る水上村を訪問しました。水上村では水上村での生活についての資料館を見学したり、水上村に生活している方々に自分たちの研究についての質問をしたりしました。今まで見たことない水上での生活に大きな驚きを感じました。「ゴミの分別はしない」、「台風が来たときには政府の船で本土に避難する」などといった、実際に行ってみなければわからないことをたくさん聞くことができました。その後、ハロンの市街地を見学しました。



### 3日目（ハノイへ移動→市内視察）

3日目は、ハロン湾からハノイに移動し、市内視察を行いました。たくさんのバイクが行き交う街の様子は、とても新鮮でした。ベトナムのスーパーマーケットでは大きめのバッグや荷物はロッカーに入れて買い物することや、ベトナムの通貨では細かい単位がないので細かく出たおつりは少し多めにくれたりすることなど驚いたことが多くありました。街頭インタビューを行おうとしましたが、英語があまり通じなかったため、ホテルのフロントの方にインタビューさせていただきました。1つ1つの質問に丁寧に答えていただき、4日目に自分たちがどのようなことに注目して活動すべきかをより明確にすることができました。分からないことを積極的に質問するかどうかで、同じ研修でも得られるものは大きく変わってくるのだと実感できた1日でした。

## 4 日目（ハロン市内にて水質調査、下水処理場視察）

現地での活動もいよいよ最終日となったこの日、私たちはハノイ市内にて河川の水質調査、下水処理場訪問および JICA 職員の茨木氏、若林氏、ダオ氏との意見交換会を行いました。水質調査では、ハノイ市内 4 ヶ所の川や湖、計 6 地点における水を採取し、COD、硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、アンモニウム態窒素、リン酸態リン等の含有量を調べました。川によっては地元の人々が釣りをしていたり、目の前の民家から排水が流れ込んでいるのが露わになっていたり、地域の生活と結びついた川の様子を観察することができました。FW 前に実施していた長崎での水質調査の結果との比較もでき、多くの収穫が得られました。次に、私たちは、バイマウ下水処理場へ行きました。バイマウ下水処理場は、ハノイの中心部に位置し、JICA の経済的な援助を受けて設立された施設です。私たちはそこで、生活排水が処理され、ごみや汚泥が分けられていく過程を見学し、日本で調べても分からなかったことを専門家の方々に直接質問しました。ここでも、処理前と処理後の水を検査したのですが、日本のそれと比べてもまったく劣らない処理能力の高さが分かりました。しかし、このような高性能な下水処理場が整備されている地域は、ベトナム全土で見るとほんの僅かしかないという状況も、私たちが考えていかなければならないことだと感じました。最後に、一日のまとめとして、JICA の職員の方々との意見交換会を行いました。職員の方の中には、国土交通省から出向されている方や、ベトナム以外にもさまざまな国で下水道設備を支援されてきた方がいて、現地での経験に基づいた多くの意見を聞き、研究への考えが深まりました。



## 全体を通して

私たちは今回の FW を通して、世界の中の自分の小ささを知りました。隣には海外の方がいて異国の言語が飛び交っている、そのような状況にさらされる中で自分という存在がいかにちっぽけなものかを感じました。また、そのような状況だからこそ、仲間の偉大さや思いがけぬ一面に触れることができました。現地の方、専門家の方、様々な人と交流する中で、日本で調べるだけでは到底考えることができなかつた新たな視点を学ぶこともできました。この研修は、班員各々にとって、今後の研究の方向性を考える大きな転換点になったことと思います。ベトナムで得た沢山のことを、班員やクラスメイトと共有し、東高の SGH 活動に還元していきたいです。このような大変貴重な経験ができる機会を設けていただき、本当にありがとうございました。

